

はじめに

数十年前は移動しながら電話をするだけでもすごいことでしたが、携帯電話やタブレット PC は、今では電話やインターネットに接続できるだけでなく、写真や動画の撮影もこなせるマルチツールへと進化し、いつでも気軽に撮影を楽しめる時代になりました。

私が子どものころ、カメラは一家に一台、写真は旅行や行事など特別なときに撮るものという感覚でした。家族とご飯を食べたり、友だちと公園で遊んだり、学校での休み時間など、日常の出来事の写真ってほとんどないんですね。そういう時代だったから仕方ありませんが、もし今ならもっともっとたくさん撮っていたらと思うんです。だって、そのときしか経験できないんですから。

過ぎてゆく時間を残すのも写真や動画の大切な役目です。特別なときだけでなく、当たり前前の日常を撮影してみましよう。数年後、数十年後にとってもとってもいい思い出としてよみがえってくるはずですよ。

写真家 並木 隆

もくじ



基本編

画面を整理してステキな写真を撮ろう 4
 写真を撮影するときのルールを守ろう 6
 動画の撮影に挑戦してみよう 8

国語編

季節の言葉の写真を撮ろう 10
 町のバリアフリーの設備を撮ろう 12
 音読・朗読を動画で撮ろう 14

社会編

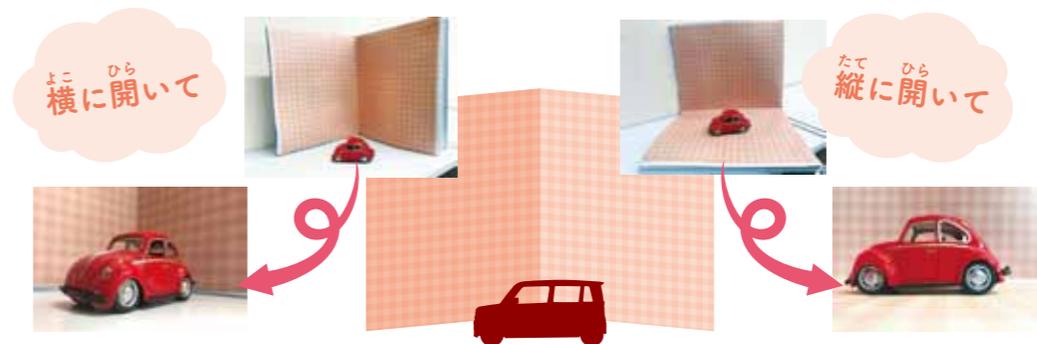
商品の陳列の工夫を撮ろう 16
 見学先の働いている人を撮ろう 18
 博物館を撮ろう 20
 博物館の展示物を撮ろう 22
 屋外の彫刻作品を撮ろう 24
 建物と人を一緒に撮ろう 26

体育編

自分のフォームを動画で撮ろう 28
 ダンスを動画で撮ろう 30

● この本は、Chromebook・iPad などの端末での撮影を想定しています。
 ※ 端末の種類によって、一部、操作や機能が異なる場合があります。

見返しの使い方



作品や小物を撮影するときの背景(壁紙)として使えます。本を立たせて、その前に作品を置いて撮影しましょう。

写真を撮影するときのルールを守ろう

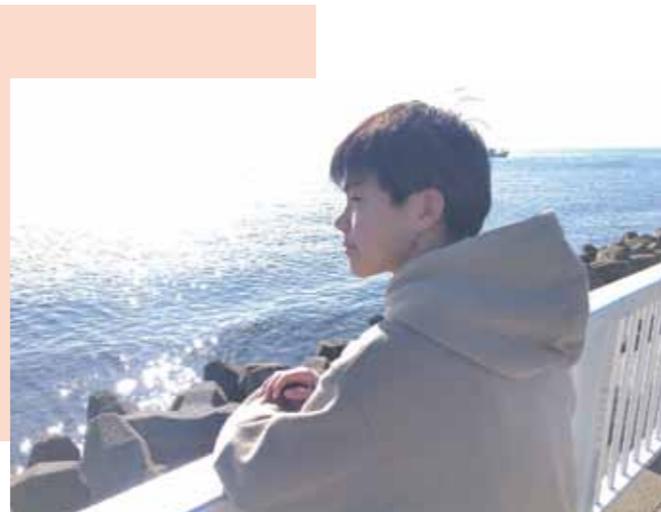
写真を撮影するときには、撮影の許可をもらうなど最低限のルールがあります。それは他人から無断で写真を撮られたり、その写真がインターネットなどに無断で公表されたりすることがないように主張できる「肖像権」というものがあるからです。ここでは、撮影するときの最低限のルールを学びましょう。

1 撮影の許可をもらおう

人物や建物を撮影するときは必ず許可を取りましょう。家族旅行の記念写真など、外部の人に公表しない場合、許可を取る必要のないものもあります。

人物撮影の場合

社会科見学などで見学先の人を撮影する場合、事前にその人に「撮影してもいいですか?」と聞いておきましょう。後日、写真を発表などで使用する予定のあるときは、その許可も取りましょう。



建物などの場合

見学先の方に、撮影してもいい場所・ダメな場所を事前に確認しましょう。博物館などは特に、撮影できない場所・ものが決まっています。また、自分たちの知らない人が写真に入らないように配慮しましょう。



大阪市立自然史博物館の入り口。事前に本への掲載許可をいただいて撮影。



浦安市運動公園内の体育館に飾られているレリーフ。1964年東京五輪参加記念メダルの複製品。事前に本への掲載許可をいただいて撮影。

2 写真をむやみにインターネットで公開しない

撮影した写真をSNSなどのインターネット上で一度でも公開すると、いくら削除してもどこかに残っていることがあります。最悪の場合、自分の知らないところで勝手に悪用される可能性もあります。あらかじめ大人に相談するなど注意しましょう。

タブレットPCは簡単に撮影ができて、すぐにインターネットにつなげることもできるのが便利だけど、使い方を間違えると大きな問題になるんだよ!



大事なのは事前準備

社会科見学では、いつ・何人で行くか、目的は何かなどの情報を含めて、事前に見学先にお願いをします。忙しい中で対応してもらうので、見学先に迷惑がかからないように、そして自分たちの見学の目的がかなうようにと、連絡をしているのです。これは撮影許可も似ています。撮影されたら嫌な人もいます。だからお互いが嫌な思いをしないように、気持ちよく撮影ができるように、プロのカメラマンは事前に許可をとっているのです。

しょうひん ちんれつ くふう 商品の陳列の工夫を撮ろう

スーパーマーケットでは、商品がより魅力的に見えるよう陳列されています。見学先の方に許可をもらったら、陳列の工夫がわかりやすいように上手に撮影してみましょう。

おくゆ と 奥行きを撮るのは なな よこ 斜め横から

商品は手前が低く、奥の方が高く陳列されています。お客さんに陳列台の奥の方の商品が見やすいように、そして手に取りやすいようにと考えられた工夫は、少し斜め横から陳列台を撮影することで表現できます。色どりもきれいに並んでいるのがわかりますね。



ベストショット



ズームでPOP もはっきりと撮る



POPは商品の値段の他にも、生産地の情報が一目でわかるように工夫されています。POPにピントを合わせ、商品を背景にして文字がはっきりと残るように撮影しましょう。

つうろ しゃしん なな 通路の写真は斜めに



このスーパーマーケットでは、奥まで陳列した商品が手に取りやすいように、通路がたくさんあります。通路を画面に斜めに配置すると、くだものも通路もはっきりと撮影できました。

よ寄り で くだもの の 配列 を 撮る



くだものが色どりよくきれいに並んでいる様子も、真正面より斜めから撮影した方が、より魅力的に写ります。「ここは!」と思うアングルを探しましょう。



みせひとか ポップ お店の人が書いたPOPは、 しょうひん いっしょ と 商品と一緒に撮る

いろいろな情報が書かれているPOPは、販売の工夫です。商品と一緒に撮影しましょう。真正面で撮影してもいいですし、右の写真のように斜めにして多くの商品と一緒に撮影するのもいいでしょう。

